

主の幕屋に宿る人

詩編一五編

12
(日)

主よ、誰があなたの幕屋にとどまり 聖なる山に宿ることが
できるのでしょうか。それは、全き道を歩み、義を行い 心
の中で真実を語る者。(1、2)

4/

イスラエルの人々にとり、神が宿っておられる神殿に足を踏み入れることは最高の喜びであり、民衆の心からの願いでした。「主よ、誰があなたの幕屋にとどまり」と神殿に入る者の資格を問うこの詩は、巡礼者たちが神殿の境内に参入しようとするとき、その門において参詣者の資格を問う入場典礼詩であったと言えます。その答えとして2節で今日の聖句のように告げられています。具体的
に言い換えた3〜5節を要約するならば、隣人愛を實踐する人と言えるでしょう。
神との縦の関係を追求するとき、それは他者との横の関係において信仰の实体が表されていくものだからです。毎週の礼拝に集うとき、神の前に出る自分の姿を誠実に省みながら、神を心から慕う信仰の歩みが、この世にあって他の人との関係に結実していく実体の伴ったものとなるよう願おうではありませんか。